

(一社)みらいず設計 Lab. 監修



## お弁当プロジェクト



8マス全てにこだわった弁当

4月3日の記念式典では、市内2つの県立高校がタッグを組み制作した弁当が振る舞われました。小川工業高生は手製の箸を、弁当はKKRホテル熊本畑ともかず具和料理長が直接指導し、松橋高生が製作しました。

のしも生徒のデザイン



ケヤキ(手前)、ヒノキ製の箸

見栄えも味も良くできました。料理長の豆知識は面白い情報ばかり。いずれは販売もしてみたいです。



松橋高2・3年生とKKR ホテル熊本、(一社)みらいず設計 Lab. の皆さん

ケヤキは機械で、ヒノキは手作業。使いやすく丁寧に仕上げました。



小川工業高生の代表2人



# さまざまな集いが まちの未来をつくる

高校生のキャリア教育を支援する(一社)みらいず設計Lab.の平松あすかさん、農家でありながら各地でキッチンカーマルシェも企画する御松一真さん、CCC(株)の瀬川優希さん、市市長政策課の田川大輔課長が新しい不知火美術館・図書館について考えました。

### 身近な文化と学びの施設

**御松** ここは居心地が良い場所ですね。先日、キッチンカーを出店させてもらいましたが、出店する側も気持ちいい。子どもも連れて来られますし、若い人もお年寄りの方も来てくれて、他の出店者も喜んでいました。

**平松** 駅からも近いし、熊本市の高校生たちもすぐ来ることが出来ます。今、地方創生をやってみたいという高校生たちが増えていくという子たちも一緒に魅力を発信して、彼らにとつての学びの場にもなればいいと感じています。

**田川** 子どもたちにとつても新しく自慢できる施設ができたの

ではないかと思えますね。

**瀬川** 私たちが運営する全国の公共施設では「図書館だからできない、やらない」とは考えません。むしろいろいろな取り組みをしたほうが、知ってもらえるきっかけにもなります。多くの方々に使ってもらえるような施設にしたいですね。学生にとつても学校以外の学びの場になれば。

**田川** 社会に出たら答えがないから、与えられたものを解くのではなくて、どういう落としどころにするのが求められます。高校生のうちから答えを作る取り組みをしていくのは面白いですね。

**瀬川** 宇城市の人に聞いて印象

に残っている話が、アーティストになりたい夢を持っていてもそこへの道は全く見えないということ。今回の企画展もそうですが、アーティストが身近になると将来の夢も一つ増えるかもしれないですね。

**御松** 確かに今まで宇城市ではあまり芸術に触れる機会が多くなかったように思います。

**田川** 文化に力を入れるのはハードルが高かったと思うんですけど、この一つの魅力は、来やすい雰囲気。人が集う施設になってきたので、これからもう一段階上のことに取り組まないかと。集まった人たちが化学反応を起こす方法を考えたいです。

### 集いをきっかけに

**瀬川** 美術館展示室は一つのスペースですが、企画展は年3回で180日ほど。残りは全部貸し館で、申請していただくと一般の人でも使えます。

**平松** 今、美術館で高校生プロジェクトとしてファッションショーの準備をしています。自治体や企業さんも協力してくださって、感謝しています。

**田川** それがさまざまなきっかけになってくれたら。絵を飾るだけでなく、ファッションショーもできる。屋外もキッチンカーや演奏会などいろんな使い方ができますし。

**瀬川** 美術館と図書館の機能をちゃんと提供するのは大前提。そのうえで、いろんな人に来てもらうきっかけをたくさん作りたくて。そして、その人たちと一緒にいろんなことを始められるプラットフォームのような場所にもしていきたいです。

**平松** 高校生って大人に出会う機会があまりないんです。ここに集う、さまざまなところで活躍をする大人の話聞いて、将来の選択肢を増やせたらいいなと。特にコロナ禍で動き出せなかった、たくさんやる気あふれる子たちにとつて、スタートの場になればいいですね。

**御松** 高校生でも大人でもチャレンジできる場所に。みんなが積極的にチャレンジできるのが一番ですし、すてきな空間で市民自体が楽しんで、いろんなことをやっていける環境になればうれしいですね。